

令和2年度

藍住東中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

主体的な学びを育む授業の実践
～基礎基本の定着～
～教師の授業力向上～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 坂東 侑樹
委員 校長:下川隆 教頭:横田正紀 松浦和也
教務主任:飯富雅彦 3年主任:稲田博
2年主任:橋本守 1年主任:伊藤知津留 3年学力向上担当:長谷川祥 生徒指導主事:高畑博紀 人権教育主事:平野忠義

校長

下川 隆



◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

授業参観やいろいろな機会でも授業を振り返る場面を作り、取り組み状況を把握する。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業にまじめに取り組める生徒が多いため、知識や技能の習得についてはある程度の定着が見られる。 ●学習の習熟度で二極化の傾向が見られ、特に応用問題で差が大きくなっている。	・各教科で学んだ知識を既習の知識と関連させることができ、授業の中だけにとらわれず、生活の中で活かすことができる。 ・獲得した技能を、実生活に反映させることができる。	・ICTの活用や、机間巡視等により、個別指導と一斉指導が効率よく行えるように授業を組み立てる。 ・相互授業参観を行い、授業研究会などを適宜設定し、教員がわかりやすい授業づくりを考え、授業力の向上に努める。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見や教師の話の聞くことができる。また、読書についても習慣化されている生徒が多い。 ●情報が多くなったり、授業の内容が複雑化すると、どれを活用していけばよいかかわからず苦手意識を持ってしまっている生徒がいる。	・生徒たちの中で意見を出し合い、協力し課題解決ができるようにする。 ・テストでは記述式で思考力を問う問題に対して空白の解答を減らし、答えを書くことができるようにする。	・各教科で班学習を取り入れホワイトボードなどを用いて、主体的な学びを実現するための手立てをしていく。 ・思考力を問う問題を授業の終わりやテストで出題し、さまざまな視点から考えさせるようにする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○チャイム着席をする習慣がついており、時間を有効に使うことができることで、主体的に学習する意欲が高まっている。 ●難しい問題になったときに解決しようという高い意識を持っている生徒が少なく、あきらめてしまう姿が見られる。	・自分で課題を見つけ、進んで学習に取り組むことができる。 ・各自で学習の振り返りを行い、課題解決に向けて努力することができる。	・自主学習ノートを活用し、学習についての学習状況を把握し、主体的な学習に取り組むことができるようにする。 ・「リポート」学習を実施し、その中で生徒それぞれのつまずきを理解し、その改善に努める。			

令和2年度 学力向上ロードマップ

